

シソウしそろう ニカン

エイゾウ

はじめに

このシリーズもニカンめとなった。わたしのズイヒツよんサクめから、ロクサクめをまとめたものである。いまおもうと、イチネンにサンサツと、よくだしたものだとおもう。いまは、やすすでいるようだからそうおもう。つぎのこのシリーズがでるまで、イチネンはまたなければならぬだろう。

キヨウははれできもちがいい。はるイチバンがセンジツふいて、キヨウはニバンであろう。ホンなどかいて、ヘヤにこもつていなくてよいとおもうが、トウブンやめるきはない。ただ、そとがきもちよきそうなのはジジツである。はたけしごとでもできればとおもう。

ニセンニジュウネンサンガツジュウよつか

イチ、『オンガクイチエンのジダイ』イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかという、ビョウドウすぎたとき。グタイテキには、はたらかないでキュウリヨウをもらうひとあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなつたからだという。たしかに、あまりはたらかないひとに、ケイザイをあわせると、とんでもないことになる。これは、どこかのくにのケイザイセイサクにしている。そうだ、「ザンギョウ」をキセイしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらかすぎでしんでしまつたり、もえつきてしまつたりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらかぎかりがはたらかなくなつたら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしようがないとおもう。

二、『オ』よん

エーからビーにすすむのに、イチビョウウかかれば、イチビョウウカンかかったという。くる

まにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキユウジョウでソクドのはやいブリイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。

ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリヨウである。それはどうシヨウヒされるか。おおきいものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブツシツをつくれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキユウジョウのリヨウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

サン、『オ』ジユウ

エーアイがたまにワダイになる。シハンのキカイにもトウサイされたものがある。もつと

すこくなると、リヨウリのこんだてとか、むだづかいのガクを、ケイサンしてくれるのだろう。そういうエーアイとたたかうのがかしこいのであるか。あるコウコウセイ、ダイガクセイのチシキは、カキュウのエーアイにうちまかされてしまうだろう。キョウイクにゴヒヤクマンエンかけるのなら、エーアイをサンビヤクマンエンでかつたホウがやすいとなる。キョウイクはジョセイキンでなりたつようなキョウソウができないギョウカイである。だから、そういうエーアイとカカクキョウソウをしたら、キョウイクギョウカイがまけるのはめにみえている。まけるとはどういうことか。キョウイクギョウカイのあかじがふえるということだ。あかじをだすまいと、ねだんをあげるかもしれない。そうするとますますキョウイクギョウカイに、おかねをはらうのが、ばかばかしくなってくる。そういうミライがみえたからか、わたしはコウコウにいかなくなった。エーアイとサバイバルゲームをするきはなかった。

どうすればいいか。エーアイをつくるホウにまわれれば、もうかるだろう。ニジュウネンまえはコンピュータがそうだった。コンピュータがリュウコウしていたときは、コンピュータをつくっていたら、もうかつただろう。テレビゲームでハンドウタイやガメンになれていたこともあったから、パソコンにもなじみやすかつただろう。いまは、リュウコウからセイジユクしていき、ハードウェアは、そうそうもうからなくなってきたようだ。

しかし、パソコンをつかうひとはそんなにへっているわけではないだろう。ソフトウェアはまだまだもうかるかかもしれない。

エーアイはわりとあたらしいソフトウェアである。もし、チシキだけがヒツヨウとすれば、エーアイにかなうひとはそうそういないだろう。ニンゲンはどうすればいいか。うごけばいいのである。このブンのようにかくしごとは、やがてエーアイにうばわれるかもしれない（かといって、てぬきをしているわけではない。わたしジジシンのユニークさでショウブしているつもりだ。）

しかし、ものをはこぶとかリヨウリをつくるのは、エーアイにはできない。ロボットがやりはじめるかもしれないが、そのところはキョウソウしてもいいかもしれない。リヨウリはつくってたべなきや ニンゲンがしんでしまうからだ。そういうキソテキなことでないから、エーアイはかるくみられている。しかし、ガッコウでまなんだことがチシキだとしたら、ニユウシヤシケンでは、「おかえりください。うちにはエーアイがいますんで。」になってしまふ。そういうわけで、チシキよりギジュツがダイジになっていくジダイなのだとおもう。エーアイとキョウソウするくらいなら、つぎにひかえているロボットとキョウソウするのがかしいといえるかもしれない。

ヨン、『オ』ジュウサン

わたしたちのすんでいるあたりを「アジア」という。もともとチュウトウあたりにあったくにをそうよんだために、それをカクダイしてつかっているようだ。しかし、コウゾウシユギシヤ（●『よろこぶゲンシジン「イカ、よ」イチ）はそれでいいのかとおもう。なぜなら、そのガンソアジアは、シヨクミンチにされていたのだ（ゾツコクといったホウがいいかもしれない）。そんななまえをみとめてしまったから、ジュウゴセイキイコウのトウシユウ（レイのなまえはつかわないホウがいいだろうから、かりにトウシユウとしておく。）は、シヨクミンチにされてしまったといえるかもしれない。ことばの（こういういいかたはすきではないが）マリヨクというやつである。かといってトウシユウといっても、そうそうつうじるわけではないだろうが、ジブンたちのことはそういえるだろう。ゾツコクじゃしょうがない。

ゴ、『オ』ジュウゴ

あるしなものエーがあつたとする。エーのほかにエーダツシユもあるとする。エーダツシ

ユだから、エーとはちがうか。それはなんともいえないが、ブツリテキにはまったくおなじものというのはむずかしいから、やはりちがうといえそうだ。しかし、それだと、エーイコール エーダツシユ、エーダツシユイコール ビーだからエーイコール ビーといういいかたができなくなってしまう。つまり、エーもエーダツシユもビーもちがうということだ。

ロンリはヒヤクパーセントとか、レイパーセントとかのものだから、ニジュツパーセントゴサがありますでは、こまつてしまう。でもゲンジツはそんなものだからしようがない。トウケイガクのようにゴパーセントゴサがあります。でいいとおもう。つまり、エーイコール ビーであるが、ニジュツパーセントのゴサがあると。ギャクからいえば、エーイコール ビーではないが、ハチジュツパーセントのゴサでまちがえたと。

シーさんといったデイは、コウテイされたり、ハンロンされたりするが、サンジュツパーセントまちがいだというようにスウチカすれば、ギロンもハクネツしないのでないか。

ロク、『オ』ジユウハチ

ものがタクサンあるホウがゆたかだろうか。タブン、そういうひとがおおいにちがいない。

ゆたかなくらしとは、ものにかこまれたセイカツだと。しかし、わたしはサイキン、クウゲンをかんがえる（●『アルクカラカンガエル「イカ、ア」ニヒヤクニジュウキユウ。クウゲンとはわたしのゾウゴで、「からっぽ」というシゲンである。つまり、どこかにもがないホウがジユウともいえる。なにかものをおいてもよいし、おかなくてもよい。しかしそれはフドウサンである。ようするにあきちドウヨウだ。ケツキヨクはフドウサンがダイジなのではないかということだ（ヘヤのイチブとしても）。

そういうわけで、わたしはフドウサンをうったわけではないが、かいてもどしている。そうすると、ゆとりがでてくる。そうニホンジンのいえはせまいのだ。わたしのおやじもおふくろもヨケイなものはおかなかった。わたしはそうではなかったが、ものがふえるにつれ、どうもジブンがうごけるハンイがせばまってくるのにきづいた。だから、ものをかたづけるといいかたもあるかとおもうが、フドウサンをかいもどすのである。かねもちのいえはタブンヨウがあるだろう。けっしてソウコのようにはなっていないとおもう。

わたしがチュウコウセイのころ、ほとんどジタクではベンキョウしなかった。テレビゲームをしたり、からだをうごかしてウインドウしたり、ガツキをひいたりした。テレビゲームと
いうあそびは、いまのわたしにとってなににもなっていないが、あえていうなら、レキシに
キョウミをもったことだ。カンレンボンもよんだ。もうイツテンは、ハンドウタイのハツテ
ンのためになった(●『よ』ヒャクナナジュウサン、ヒャクハチジュウサン)。ウインドウはシンタイ
のケンコウにつながっているし、ガツキはシユミになっている。

でも、サイキン、ベンキョウなり、ケンキョウもいいシユミではないかとおもえる。ホン
とヒツキグテイドにしか おかねがかからないからだ。ホンはゴヒャクエンからかえるが、ガ
ツキはナンジュウマンとする。やすくてもスウマンだ。だから、シヨミンにとって、ベンキ
ョウはいいシユミだとおもうのである。それをおそわったのは、いいシユウカクであった。

ハチ、『オ』ニジュウよん

なぜテンにめされるといいいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウが
いいからである(と、わたしはかんがえる)。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけ

ているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまつたらどうなるか（ひかりもシザイである）。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもとのシゲンはおくについてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもつたらどうか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが）。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

キュウ、『オ』ニジユウハチ

わたしがダイガクにいつていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニューガクしたならともかく、おくれてはいたので、シユミでガツコウにいつているとおもうようになった。だから、ジブンでは

らったホウがいいだろうと。それがあつたから、コウギはやすまずにうけた。セイセキはまあまあだった。

しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになった。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらつてといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンないチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかつたが、イチジシキで、チヨクセンテキなスウシキで、それからのみこみ、ガクヒのブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ）「ガクヒのたまりぐあい」イコール エーエックス（マイツキのキュウリヨウ）「ジキュウ かける キンムジカン」マイナスビー（セイカツヒ）といったぐあいである。

エーエックス（キュウリヨウ）がふえればすぐゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタツセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジュウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガツコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのぼそうというのは、わたしのみがつてなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできまるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。

ケツカは、おかねはたまつたがシユクダイをやるジカンがなくなつてしまつたので、これはソツギヨウできないとおもひ、ジネンイコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチユウでジブンのみがつてさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなくなつた。いまなら、スウシキのヘンスウをイツコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジensei）イコール エーエックス（ジブンのドリョク） プラス シーゼット（カイシャのギョウセキ） プラス デイエイチ（シジヨウのケイキ） マイナス ビー（セイカツヒ）のようである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

ジユウ、『オ』ニジユウキユウ

シヨウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげ イコール コスト たす リエキ というやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかつているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイシヨウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリヨウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげ

ようとおもつたら、ジンケンヒ（ジュウギョウインのキュウリヨウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところで、セイヒンをつくつたりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシユギのシユダンといえるかもしれない。

ところでジュウゴセイキくらのヨーロッパでは、センキョウシをカイガイにおくりだしはじめた。シンタイリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキをヨーロッパのくにはちからずくでシヨクミンチカしようとした。なぜシヨクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリヨウをやすくてにいったかったからだろう。そうすればヨーロッパのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくるのである。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。

どういうことかという、ヨーロッパでシユウキョウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイツセンマンエンかかったとしよう。シユウキョウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイツセンマンエンとなる。しかし、シヨクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブツカがやすいとカテイす

る。)、ニヒヤクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハツピヤクマンエンのリエキ(そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい)、うりあげがすくないとしても(たとえばヨンヒヤクマンエン)、ちいさなキンガクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところに行くのだ。これをシユウキョウのホウホウとよぶことにする。

シホンシユギのシユダンとシユウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすくつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキユウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

ジュウイチ、『オ』サンジュウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシヤのタイリツがおわったんだって。」といえ

るひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハツタツしている。なにかのセイヒンのコウジョウでも、それらをつかつたりするだろう。それがキュウゲキにすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシヤがいらなくなるのである。「いらぬ」とはどういうことか。「やとわぬい」、「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサンするから、ニンゲンのロウドウシヤはいらぬということである。

シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシヤは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシヤにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかったのではないか。それでまあまあやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシヤのタイリツはおわりである。リョウシヤともジツサイにはつきあわないわけであるから。

しかし、シホンカがノウチをタクサンかったばあい、ロウドウシヤは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるというわけだ。なんのことはない、またショウエンセイになるというだけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとどうなるか。ガツシユウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。

ナンブではドレイをつかつたノウギヨウをしていて、ホクブではコウギヨウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、シヨウエンのロウドウシヤが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イツボウ、コウギヨウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともあるだろう。こういったシヤカイをナンボクタイセイといっておこう。

ただ、ガツシユウコクのばあいには、ホクブはコウギヨウセイサンをしていたからシキンがあつた。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノウギヨウもコウギヨウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたかうことはできるが、シヨウエンがわがグンとなかよくしていたら、シヨウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキユウジソクやコウギヨウセイサンをしていけば、まあモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシヤのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

ジユウニ、『オ』サンジユウイチ

ロウドウシヤのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシヤならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシヤドウシのキュウリヨウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきに入った（●ジュウイチ、『オンガクイチエンのジダイ「イカ、オ」サングジュウ）エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリヨウがあがるといつても、すなおによるこべない。タンジユンにいえば、ニンゲンのロウドウシヤにはらうキュウリヨウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシヤは、リストラのタイシヨウになる。

ニホンジンよりナンポウのほうのくにのひとにつくらせるとかをいままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つくるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

ジュウサン、『オ』サンジュウサン

「コウコウ、ダイガクにはいかななくてもよいのでは。」というテンについてのべた(●サン、『オ』ジュー)。それはなぜか。そこでおぼえるチシキはそこらへんにあるし、ヒツヨウなどにネットワークからよびだすことができるからだ。タンジユンにいうと、「チシキ」へのアクセスカクがやすくなったのだ。それはネットワークカンキョウがととのったことによる。パソコン(ネットワーク)が「チシキ」へのアクセスカクをやすくしたわけだ。もつという、もはや、ただとおもわれているかもしれない。それなら、ガッコウにたかいかねをばらうことはない(しかし、ケンキョウシヨクなどチシキでシヨウブするしごとだったら、ガッコウにいくのがいいだろう)。

「チシキ」へのアクセスカクがさがつたのだから、ガッコウのガクヒもやすくなるのがシジヨウのジヨウシキである。ゲンにダイガクなどはテイインわれがでているとき。しかし、どうもゼイキンをトウニョウするようだから、やすくはならないというか、ガッコウがオンゾンされる。まあ、(キョウシ、キョウジユにタイする)シツギョウタイサクもあるからだろうが、ガッコウがシンポするのかうたがってしまう。こんなだから、コクサイキョウノウリヨクのあるダイガクがでてこないのだろう。

ジュウヨン、『オ』サンジュウヨン

パソコン（とネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをさげた（●ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。いまはもつとそれがすすんでいる。それはそうだ。パソコンがフキユウして、ニ、サンジュウネンたつからだ。コンドは「エーアイ」によって、ズノウロウドウがやすくなるだろう。ズノウロウドウというと、キユウジュウネンダイから、ニホンキギヨウがジュウシしていたブンヤだ。セツケイがニホンでおこなわれて、セイゾウがカイガイというセイヒンのつくりかたが、そのレイである。ほかには、ホンヤクとかキヤクホンとかケイリとかそういうシヨクシユである。ガツコウのキヨウシもそうかもしれない。そういったシヨクシユのロウドウのカカクがさがる（さがっている）だろう。カンタンにいうと、エーアイがもちいられて、ひとはベツのしごとをするようになるということだ。それもまたゼイキンをトウニユウしてロウドウシヤをまもるのがキヨウミぶかい。

ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ

「エーアイによつて、ズノウロウドウがやすくなる（●ジユウヨン、『オ』サンジユウよん）。」のつぎはなにか。ロボットのリヨウである。これはいますすんでいて、タンジュンなうごきのニクタイロウドウはつぎつぎとおきかえられるであろう。たとえばショウウテンのハンバイイン、インシヨクテンのテンイン、タクシーのウンテンシユ、セイソウインなどがロボットにおきかえられる。やっぱり、これでシツギヨウするひとをどうささえるのが、キョウミぶかいところであるが、さきのふたつのおきかえ（コンピユーター、エーアイ）をふくめてまだニンゲンのロウドウシヤが、はたらきつづけられるはたらきかたがある。

それはシヨクニンになることである。つまり、トクテイのブンヤで、コンピユーター、エーアイ、ロボットをタクエツするギジュツをもつていれば、はたらきつづけられるということだ。ジンリキでなにかをするひとをアーティストという。ニホンでアーティストというと、サツカ、ゲイノウジンであるが、アート（てサギヨウ）をさきのみつつにまけないスイジュンまでたかめられれば、シツギヨウしない。しかし、ジブンがへたなアーティストだとおもうのなら、いまからジュンビしておいたホウがいいかもしれない。エーアイやロボットにおしえられるくらいじゃないときびしいだろう。

ジュウロク、『オ』サンジュウロク

コンピュータ、エーアイ、ロボットのハッタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり（●ジュウ）、ズノウロウドウのカカクがさがり（●ジュウヨン、『オ』サンジュウよん）、ニクタイロウドウのカカクがさがる（●ジュウイチ、『オ』サンジュウ、ジュウニ、『オ』サンジュウイチ、ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ）。そうすると、たいしたしごとをしないうぶらさがりロウドウシヤはいらなくなってくる。

これまでは、シヤカイシユギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれもおわりだろう。ひとつでも、それらみつつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとつてやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシヤにおきかえられたが、いまではそのみつつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシユウヤクテキなしごとをハツテントジョウコクなみのチンギンでやるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというホウリツテキしぼりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないより、ましだとおもうのである。

ジュウシチ、『オ』よんジュウ

サイキン、あまりフケイキだということをいわない。ホントウかどうかはともかく、シツギヨウもへっているらしい。しかし、イツポウで、セイシャインのロウドウジカンのタンシユクをスイシヨウしている。ケイキがいいなら、ロウドウジカンをへらせないだろう。ロウドウジカンがへれば、セイサンリヨウもへるが、キュウリヨウもへる。ジツはフキヨウなのではないか。シユウなホウドウでは、あまりセイケンヒハンはしないので、そういうこともしわないのかもしれない。しごとがへって、キュウリヨウがさがってどうするのだろう。おかねをつかわないシユミがはやるんだろうか。

ジュウハチ、『オ』よんジュウニ

シホンカとロウドウシヤのタイリツというテーマがある（●ジュウイチ、『オ』サンジュウ）。タブンそのリヨウシヤともしつかりしごとをするのがよいとおもうが、それによっておきたセイヘンなどもある。

きたチヨウセンがカク（ヘイキ）をもってけしからんというとき、そのズシキをおもいだすと、やつぱりよかったのかもしれないとおもうことができるのではないか。つまり、（アメリカ）ガッシュユウコクやオウシユウというかねもちのくにか、カクヘイキをもつて（ビンボウでカクヘイキをもっているにはすくない）、ロウドウシヤカイキュウのきたチヨウセンがカクヘイキをもてば、もはやかねもちだけのイシで、セカイをうごかすことはできなくなる。つまり、いままでシホンカによるシハイだったセカイが、ロウドウシヤのイケンもふまえたセカイにすることができるようになるのである。つまりはヘイワになるのである。かねもちは、キトクケンエキをうしなうからつらいが、シホンカとロウドウシヤのいいキョウももちつつ、セカイをウンエイしていくことができるのだ。かんがえかたシダイではわるくないだろう。

ジュウキュウ、『オ』よんジュウサン

あるアーティストがサクヒンをだし、シイデイをおおいにうったでしょう。ヒヤクマンマ
イウれたとする。そのヒョウカについてひとは、「アーティストのコセイが、よにみとめられ

た。」などという。しかし、ホントウに「コセイ」でうれたのだろうか。

わたしがおもうには、「コセイ」は二のつぎで、そのアーティストをオウエンしようというひとびとがタクサンできたことで、ヒヤクマンマイのうりあげをタッセイしたのだとおもう。もつといえ、オウエンするひとがヒヤクマンニンいるから、かれらにささえられて、つぎもいいサクヒンをかれはつくるはずである。

わたしは、キュウジュウネンダイにうれたアーティストのサクヒンをそうおもった。オウエンするひとがバクハツテキなうりあげをつくるのである。オウエンがいいオンガクをつくらせるのである。

ニジュウ、『オ』よんジュウゴ

シイデイやデイブイデイ、ホン、そのタ ネットワークなどでキョウキュウされる「こと」を、わたしは「ギジ（ダイリ）タイケン」とよんでいる（●『よ』ヒヤクよんジュウよん）。「ダイリタイケン」ではあるけれども、それらはジョウホウギジュツのハツタツで、ダイタイ、アッシュクされている。また、ナイヨウもムダなブンをなくして、アッシュクされたナイ

ヨウである。だからここでは、これらを「アッシュクタイケン」とよぶ。

サイキンのこれらのトクチヨウは、カカクがやすくなっていることである。もしくはそんなにうれない。なぜかというと、チュウコシジョウをふくめて、タクサンのしなかずがあるからだ。キョウキュウがふえれば、カカクがテイカするというのはなしだ。だから、ものとしてではなく、チュウコシジョウにながせない「データ」としてうるケイコウがよくなっている。それなら、チュウコシジョウにながせないから、カカクがやすくないというわけである。

しかし、まだシイデイやデイブイデイ、ホンはつくられつづけている。だから、カカクのテイカはとまらないわけだ。トクにわたしがキグするのが、「アニメ」である。これは、ひとりがイチニチ、サンジュウマイのえをかいで、ゴセンヨンヒヤクニチ。つまりジュウゴネンかかって、イチジカンハンのアニメがカンセイする。それほどかずのおおいアッシュクタイケンなのである。このカカクがさがると、つくろうとするひとがへってくる。それをおぎなうためにコンピュータギジュツをつかって、ゴウセイしていくサクヒンがふえるだろう。そうすると、もはやアート（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ）ではなくなる。まるばつさんとコンピュータのキョウサクですというようになる。だからそういうジョウキョウをさけた

ければ、オウエンすべきだとおもう。「アート」としてのアニメがホウフにあったジダイは
わりつつあるということだ。ほかのアツシユクタイケンもそうだが、トクにアニメがケンチ
ヨだとおもう。

ニジュウイチ、『オ』よんジュウロク

カガクというのは、エイゴでエスシーアイ、きるというセットウジのつくことばである。
だから、ドンドンこまかくみていく。ケンビキヨウができて、さらにブンシコウゾウ、また
それよりこまかいものをみるというように。

くすりはむかしはシヨクブツなどからつくつただろうが、いまは、カガクシキをかんがえ
てつくる。いいカガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキとゲンブツをつくれれば、コ
キヤクにかつてもらえるわけである。しかし、ベツにそこまでこまかくしなくてもいいかも
しれない。つまり、ヨブンがあるくすりみたいなものである。たとえば、シヨウガのなにか
のセイブンが、いたみにきくが、そこまでこまかくしないで、シヨウガつかうといったぐあ
いである。カガクシキにもとづいてブンシをつくるやりかたはメンキヨがヒツヨウだった

りする。しかし、コーヒーをチョウゴウするにはメンキョはヒツヨウない。そういうくさカガクがおもしろそうだとおもう。たべたらおもしろくなるくさも、ハツケンされるかもしれない。

ニジュウニ、『オ』よんジュウなな

このまえ、マンネンヒツをデンシショッピングしていた。いまわたしがひらシャインだとしたら、ショウシンしていくたびに、どういうそれをつかうかというぐあいにはらべた。モチロンこのみがあるから、すべてがタイショウにはならない。ひとそれぞれのものがたりがあるからだ。しかし、えらんでみると、アンガイはずはすくない。シャチヨウなるまでひととおりしらべたが、ジュウドはそんなにない。イチヤクシヨクにみつつセンタクシがあればいいホウド。それでちよっとショウシンしたきになって（おそらく「かかりチョウ」だ）、かってみた。

しかし、うれしいのだが（ショウシンがであろう）、あまりキノウテキとはいえなかった。ガイコクセイ（カイガイフニンといえるかもしれない。ちなみにわたしのキャリアアパスでは

「とりしまりやく」までカイガイだった。)のそれは、ほそいといわれるふでさきでもふとい。だからわたしにはつかいづらい。キャリアパスをまっとうするには、エイゴをつかえばよいのかもしれないが、それもどうかとおもう。だからさらにセンタクシがせばまる。そうすると、えらんでいるのだが、ほとんどえらべないのである。また、シヨウシンしたら、まえにつかっていたものにもどせないようなきもする。それはコウカクだからである。そういうわけで、シュツセするとあとがなくなる。

それなら、あまりシヨウシンしなくてもよいのではとおもうようになった。いまのマンネンヒツ(シヨウシンまえ)にフマンがあるわけではない。よつほどフマンやいきづまりカンがでてきたら、シヨウシンさせればいとおもうようになった。つまり、シヨウシンするカイキュウもシゲンだから、タイセツにして、だれかがいきづまったら、そのひとをシヨウシンさせればいいということである。

ただ、がんばっているひと、ユウシユウなひとが、あまりセイセキのよくないひとにさきにシヨウシンされるといふのは、あまりおもしろくないだろうから(そういうシャカイシユギのシツパイをくりかえすのではノウがない)、カイキュウとキュウリヨウはベツにするわけである。だから、ユウシユウなひらシャインのまるクンはネンシユウハツピヤクマンエン

だが、カチヨウになったバツさんはネンシユウがヨンヒヤクマンエンというぐあいである。シヨウシンについてかんがえてそうおもった。

ニジュウサン、『オ』よんジュウキユウ

シヨクジをとると、やがてウンコがでる。これはニンゲンにとつては、あたりまえのことかとおもう。むかしのヨーロッパでは、それをそとのドウロになげすたという。しかし、ゲンザイではゲスイドウにカイシユウしているのだろう。このようにチツジヨからはイッテイのデイスオーダー（フチツジヨ）がでるといふことは、しかたのないことだとおもう。ほかのレイでいえば「ごみ」である。それをリサイクルして、またチツジヨにくみこんでいくというホウホウをいまはとっている。かわつて、ロウドウのバメンではどうだろうか。やはり「ウンコ」とか「デイスオーダー」はでないであろうか。

あまりきかないが、「デイスオーダー（カイシャからみれば）」ホンニンのモンダイではない、がたまつてドクリツ、リシヨクするひともいるだろう。たまに、しんでしまふひともいる。そういえば、シンソツのあるイッテイスイウがナンネンイナイにやめるといわれている。

しんでしまうのはトクにモンダイだが、タイシヨクするひとをふくめて、「デイスオーダー」のシヨリがわるいともいえるのではないか。テンシヨクするうちに、「デイスオーダー」のシヨリをおぼえていたのかもしれないが、わたしもそのシヨリがうまくない。まあ、さげをのむなど、いいカイシヨウホウがあればいいとおもう。

ニジュウヨン、『オ』ゴジュウイチ

キョウソウをぜとしたり、キョウソウをいかんとしたりする。イッパンテキには、あるテイドのキョウソウは、そこであつかうものをシンカさせたりするためにのぞましいとされるのではないか。しかし、ホントウにそうなのだろうか。チョメイなシヨウをとったニホンジンはいるが、ニホンでサイコウとされるダイガクは、あまりコクサイキョウソウリヨクをもたないという。そこにはいるためにタブン、キョウソウしたのであるうにもかかわらずである。ホントウにダイジなのはキョウソウだろうか。あるキギョウブシヨのレイでかんがえてみる。まるさんは、しごとができるホウで、バツさんはあまりしごとができない。このふたりがのみにいくと、まるさんは、バツさんのことを、「きみがいったダイガクがわるかった。だか

らしごとができないんだ。」などとさんざんいやみをいう。バツさんもバツさんで「そうだよね。おれのセイセキがわるかったから。」などという。これはセイサンテキか。また、かりにまるさんのことばにタイして、「ばかやろう。おれはおまえのコソクなやりかたがきにくわねえんだ。」といったとしてもどうだろう。ほとんどセイサンセイがない。しごとはなしではなくコジンコウゲキをしているからだ。ダイジなのは、ココがそれぞれのしごとをきちんと、なるべくよくなるように、やることで、そういったフモウなシテキやケンカをすることではない。フモウなコウゲキやケンカをするブン、セイサンセイはさがるだろう。

だったら、キョウソウじやないのかであるが、モチロン、セイセキによるキョウソウテキキなものはあるだろう。しかし、それはそれでホンシツではないとおもう。フモウなコウゲキのかわりに「このまえのしごとのカイゼンをかんがえた。こうこうなだけどおまえはどうおもう。」「それならあしたホウがはやくできる。」となればセイサンテキである。わたしにいわせれば、ベンシヨウホウのあるココのドリヨクではないだろうか。カイゼンがヒツヨウなければ、ベンシヨウホウはいらない。キホンテキにはしごとはコジンがするものだからである。しかし、ニホンのダイガクのコクサイキョウソウリヨクがひくいというのは、ニホンジンがベンシヨウホウをにがてとするからではないか。

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もとうしや、もとホウレンソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキトウかはわからない。「わたし」は、ジョウホウであるカノウセイがあるからだ）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとさすがのこるんだらう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、シヨクブツの かになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだらうし、キタイはふたたびリクチにおいてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてシヨリされるのだらう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジユモクソウにもらいたいかもしれない。サンコツやジユモクソウなら、シヨクブツにほねがキュウシユウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれ

かわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいは「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになればたいしたものだ。そういうわたしもカコのだれかのワンスルーがふくまれているかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはシヨクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど））。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイシヨではゲンキユウする。そこからまえのはなしになると、どうもたちばがわかるようだ（かみがつくつたとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくきとかドウブツだったとか、かんがえるのがシゼンでないか。イデンシをしらべればわかるといったって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。ものありかたにオウじて、ギジュツがハッテンしたのではというきがする。

だから、くさとかドウブツのブンシをしらべれば、かこにあつたもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セツキ、テツキをハツタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセツシユがすくなくつたようにおもう。だからゲンシテキなヒューマンは、くさ、プリヒューマンというジュンカンだつただろう。「はか」をハツタツさせるまえだつたら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだつただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハツテン（はじめのうちには、ユウリヨクシヤだけだつただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない）。セツキのハツタツもジュウヨウだが、それでもやつぱりドウブツのホウがうえとなる。もつとまえになると、シヨクブツよりカイソウがひくかつたかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。シヨクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが。さるからハツテンしたといわれたりもするが、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこつていわけだから。イデンシがにているといつてもそれはシヨクリヨウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみ

とめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まあ、ブゾクあらそいなんかしてもしようがないのだが。

ひとついえるのは、セイショがかかれたのは、はかがハツタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキュウをシハイ」なのだ。エジプトおウのコウセキがおおきいだろう。あんなおおきなはかをつくったのだから。そのまえはほかのドウブツがチヨウテンだった。もしヨゲンシヤがジユウヨウなものハツテンのときにあらわれるのならば、セツキをつくったときにもあらわれるはずだ。ただそれをキロクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキュウしただろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかんがえがないので、もやしてしまふのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

ニジュウロク、『オ』ゴジュウサン

ユウセイセイシヨクのリテンとはなんだろう。クローンもつくれるジダイのはなしである。よりよいケイシツをもちあつて、よりよいこがつかれることだろうか。たしかにそれならず

ぐれたひとばかりになる。ただそれはギャンブルのようで、よりわるいケイシツがのこることもある。しかし、そんなにシゼン、そしてシヤカイカンキヨウはきびしいのだろうか。たしかにシヨクリヨウがなかったり、みずがなかったりするチイキはあるようだ。

いまなら、いいデンキ（デンシキキ）をつくれるひとがユウシユウなんだろうか。かわでセンタクをしてもいいはずだ。まあ、デンキはフウリヨクハツデンでもできるから、ネンリヨウにたよらないデンキジダイはいいかもしれない。さしづめ、このまえば、ユキ（セキユ）ジダイだろうか。そのまえば、タンキ（セキタン）ジダイだ。はたしてこういうシンポは、いつまでつづくのだろう。それがユウセイセイシヨクのシユクメイだろう。

ニジユウシチ、『オ』ゴジユウロク

「わをもつてとうとしとなす。」とシヨウトクタイシがいったという。だからニホンジンは「わ」をダイジにするんだろう。ニホンはシユダンシユギのブンカともきかれる。それでいいのかというハンセイがあつたかわからないが、わりと「コ」のこともいうようになった。「コセイソソチヨウ」など。ただ、ロウドウシヤにとってはロウドウすることがダイジだろ

う。「わ」でも「コセイ」でもいいが、とにかくはたらくことだ。

サギヨウというのはキヨウドウサギヨウもあるが、ひとりでやるのがキホンだ。だから、「コ」がしつかりしていなければいけない。あまり「わ」をおもんじてしまうと、「わ」をなすサギヨウ、タンジュンにいえば、なかよくするためにジカンがさかれてしまい、カンジンのしごとがはかどらないとなる。だから「わ」をなすでもほどほどにしたホウがいい。「わ」をおもんじすぎると、カイカクがすまず、「コ」をおもんじると、ヤクシヨクからおろされたりと。わたしからみれば、「わ」をおもんじすぎると「ヘイサテキ」におもえる。

ニジユウハチ、『オ』ゴジユウなな

さきにはなした「ゼンセイ」のはなし（●ニジユウゴ、『オ』ゴジユウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるというのは、どちらかというものはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジヨウホウとかギジュツである。サイキンは「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなった。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそつちのホウのあつかいになっているかもしれない。そ

ういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。

しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブツシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといっただけはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジョウホウにはいかゲンなそれがある。ただそれだけだ。

ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セツトクリヨクがあるのだらう。ガツコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリヨウをつかってカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだらうが、そういうものはなしはしない。そういうのを「ジョウホウカシャカイ」というのだらう。そのジョウホウをしまったって、ものがなければくみだてられない。だからしようがないといえましょうがなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。ものないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ、ニジュウ、『オ』よんジュウゴ）。どこまでジョウホウカするのかはわからないがアートをダイジにしたい。

ニジユウキュウ、『オ』ゴジユウキュウ

ワンスルーのはなしをした(●ニジユウゴ、『オ』ゴジユウニ)。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイとかドウシというかがあるだろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのシヨクブツやドウブツのキョウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウシヨクブツのドウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウシヨクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケツコウなはずのひととキョウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

サンジユウ、『オ』ロクジユウ

ニジユウセイキのゼンハンにはインフレがおこったという。おかねよりもののホウがアン

ゼンだと、ひとびとがハンダンすれば、ものがヒツヨウイジョウにかわれ、もののねだんがあがる。ニホンもセイサクテキにインフレをねらっているらしい。スウパーセントテイドのインフレという。

しかし、きをつけなければならぬのは、もつとおおきいインフレだ。それはセイフフサイのシヨリによっておこるかもしれない。すでにセイフやジチタイのコウサイハツコウガクはセンチョウエンをこえた。これはかえせるのかというと、いまではキンリをかえすがセイゼイのようだ。だからもつとふくらむ。それをひどいやりかたで、たとえばブツカにテシカするとうりやりかた（タンジュンにいうと、シヨウヒゼイのようなゼイキンをとりたててシヨリするやりかた。）をすると、シジョウにでまわっているエンをニヒヤクゴジュツチヨウエンとカテイして、そののよんバイのセンチョウエンを、シヨウヒンカカクにうわのせすることになる。つまりニヒヤクゴジュツチヨウエンで、センニヒヤクゴジュツチヨウエンのものをかうことになるから、カカクはゴバイになる。もうひとつかんがえたがある。

あとスウネンでセイフフサイはコジンキンユウシサンとおなじくらのガクになる。そこでセイフがトクセイレイをだしたらどうなるか。セイフフサイのブンだけあたらしいかねがヒツヨウになる。それをジツサイにすると、コジンキンユウシサンとあわせ、コジンキン

ユウシサンのニバイのかねがあふれることになる。そうすると、ニバイのインフレとなるわけである。どちらにしてもきびしいが、ヨウイをしておくといいかもしれない。

サンジュウイチ、『オ』ロクジュウニ

やすいなにかはおかいどくかもしれない。わりとカカクをみてかいものをしたりするだろう。やすいものをえらんだりする。しかし、「やすものがいのぜにうしない」ともいう。なぜか。それはやすいカカクには、リスクがふくまれていることがあるからだ。つまり、それはフベンなもの（サービス）だったりするわけだ。うるホウもなるべくたかくかってほしいところであろう。だから「やすい」にはきをつけたほうがいいだろう。

サンジュウニ、『オ』ロクジュウゴ

こどもはやがてガツコウに行く。ガツコウでキョウカシヨをめくり、ジュギョウをうける。ガツコウをソツギョウしても、やっぱりジュギョウにおセワになるかもしれない。なにかと

いうとテレビである。ガツコウですなおにジュギョウウけていられたのなら、テレビキョクがながす「ジュギョウ」をうけるくらいわけないであろう。そうかんがえると、ニホンジンはしぬまでベンキョウしているんだなおも。そういえばわたしのオヤジもケツコウテレビをみていた。しかし、わたしはカイガイにいつていたときがあるので、ことばがわからずテレビをみないことがおかつた。いまになつてもそんなにみない。だから、そのセンでいくと、わたしはわるいセイトだ。「ベンキョウ」していかないことになるからだ。

しかしながら、そういうジカンができたことでもかんがえるようになった。かんがえたってしかたないのであるが、ちよつとかわつたセイトになつたかもしれない。いまは、パソコンネットワークのハツテンで、そのホウメンからハツシンされるニュースをよんだりする。パソコンガツコウのセイトではあるわけだ。それはなにがいいか。うるさくないことであろう。それはホンをよむこととかわらない。つまり、「キョウカシヨ」だけちよつとよんで、あとはジシュウしているのである。だからしゃべるのはへたになるかもしれない。モデルとなるセンセイのことばをきかないわけだから。

サンジュウサン、『オ』ロクジュウロク

ひよっとしたら、「かみ」が、かんじるひとの「そと」にあるうが、「うち」にあるうがモンダイはないのかもしれない。それはこういうことである。ゲンダイには「マヤク」があるとされている。そのマヤクをつかうひとの「うち」にいれるのはモンダイとされるが、「そと」にあるばあいもまたモンダイなのである。それは、マヤクをつかったり、うりかいしたりするカノウセイがあるからである。「そと」にもっているとすれば、そのひとがつかわれないにせよ、チキュウシヤカイというおおきなめでみれば、つかっているのとドウヨウであらう。

タブンこういうことだとおもう。マヤクは「ある」イジョウしかたがないが、あるノウドをこえてセツシュするとモンダイだと。タンジュンにいえば、「ある」マヤクをセカイジユウのひとにキントウにいれさせればモンダイはないと（コウカがうすい）。こいノウドであるひとの「うち」にいれるからモンダイだと。だから、ホウリツテキにはキンシされているのだけれども、「ダメ」か「ダメじゃない」かのニタクではなくて、テイドのモンダイなのであらう。「マヤク」だつてリサイクルがあるはずなのである。

このモンダイは、「かみ」にもいえるかもしれない。やっぱり「うち」にあるか「そと」にあるかはモンダイなのではないだらう。キョウシンはこわいメンもあるけど、まったくないといきるのもこわい。テイドのモンダイではないか。

サンジュウヨン、『オ』ロクジュウなな

ハチジュウネンダイからキュウジュウネンダイに、ニホンはコウギョウセイサンなどのシユイのザについたともいわれる。しかし、それイコウあまりそういうことをいわなくなった（シユイからおちたからでもある）。「まもりをかためたふねぶね」みたいないいかたもあまりきかない。ジツサイに、オウベイではケイザイセイチヨウがつづいているが、ニホンはあまりしていないという。なぜそうなのか。

わたしなんかのレイでも、なにかがたりないなかでケンメイにドリヨクしているときはタクツとかそういうことはおもわなかった。しかし、ひととおりのものがそろってしまうと、そのあとにタクツとおもってしまう。つまり、ニホンジンが「センゴフツコウ」のブンミヤクでうごいていたときは、とにかくがんばっていたが、ひととおりがおわると、あまりがんばらなくなったのではということだ。がんばらなくなったというか、がんばりにくいのだろうかとおもう。

わたしなんかはこどものころにめぐまれていたので、「センゴフツコウ」のセンでかんがえることができなかった。しかし、「センゴフツコウ」がおわっても、セイサンカツドウはおわ

らない。ジブンとシヨウブなのかもしれない。シンリガクでは、ジブンのそとのモンドイでがんばらなければいけないときは、そのモンドイがなくなると、ドリヨクをやめてしまいがちだが、うちの（そのひとの）モチベーシヨンでなにかをすると、やるきがながもちするといふ。ニホンジンもそうした「うち」のモチベーシヨンでしごとをやるときのなかもしれない。

サンジュウゴ、『オ』ロクジュウハチ

かねのあつまるところにトシができる。トウキョウもそうだし、ニューヨークだってそうだろう。いまはセイフがゼイキンをとってサイブンパイをおこなうから、セイジジヨウのシユトにトシができることがおおい。セイフがゼイキンをとらなくなったらどうなるか。かねもちのいるところ、キギヨウのあるところにトシができるはずだ。キギヨウジヨウカまちといふことばがあるが、それがふえるだろう。そうすると、シャカイタイセイはトシコツカにちかくなるであろう。

いまのところ、セイフがいらないというはなしはあまりしないが、もしいらないとすると、

そういうタイセイになるう。いくつかのトドウフケンをまとめるやりかたよりキョクタンではあるが、むかしはそれでやっていたくにもあるので、フカノウではないだろう。しかし、やっぱりセンソウになるのかもしれない。

サンジユウロク、『オ』ロクジユウキユウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ニジユウゴ、『オ』ゴジユウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでもあれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイシヨができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかかっている。こうかかれると、それをタッセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない）、はかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、ほかのシユウキョウとよべるかもしれない。

それをヨーロッパではニセンネンほどつづけ、ジユウキユウセイキになってニーチェがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイさ

れるということ。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジヨウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリヨクが、よわくなつていく。しかし、マイソウについては、サンコツやウチユウソウなどでできたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソウはひろまっていくようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないのである。ただ、このゴはどうであろう。

サンジュウシチ、『オ』ななジュウ

ひとがフウソウとなるとき、おかねをもつようになるのがさきか、それともフウソウのタイドができるようになるのがさきなのだろうか。かねのないフウソウじゃしようがないから、おかねをもつことがさきとかんがえられるかもしれない。しかし、いきなりおかねをもったばあいは、フウソウのタイドができていないから、「なりキン」とよばれることが

おおいのではないか。ウエーバー（マックス、ドイツのシャカイガクシヤ）は、プロテスタントのひとたちのセイジツさがシホンシユギをハツタツさせたという。つまり、タイドがさきでおかねはあとなのではないかともいえる。ニホンではコウレイシヤがケツコウなシサンをもっているというから、やっぱりシサンができるタイドができていたのだろう。もしコウレイシヤなみにシサンをもちたいというのであれば、コウレイシヤのタイドをまなぶといだろう。わたしはまだまだそれができていないから、おかねもちにはなりにくいかもしれない。

サンジユウハチ、『オ』ななジユウよん

ローカルでのひとづきあいがすくなくなつたなどといわれる。また、ミコンシヤがふえているともいう。なぜそういうことになるのか。それはヒヨウのモンダイかもしれない。ローカルでひとづきあいするばあい、それぞれがなにもヨウキユウしなければ、ヒヨウはレイにちかいか、レイだろう。ジカンやロウリヨクはかかるかもしれないが、ほかにはかからない。しかし、もつといいジヨウケンがある。それはカイシヤとのつきあい、カイシヤでのつきあ

いである。それだと、ヒヨウがマイナスになったりする。キュウリヨウがはいったり、ケイヒでおとされたりするからだ。だから、ローカルのつきあいより、しごとでのつきあいをユウセンする。そうすると、ローカルでは、ひとつきあいがうすれてしまうのだ。そうすると、ちかばのひとをしらなかつたり、エンができなかつたりするだろう。それならそれでカイシヤがケツコンあいてをシヨウカイすればいいかとおもすが、なかなかむずかしいのかもしれない。シユウシンコヨウのジダイならともかく、「リストラ」をしにくくなってしまうからだ。

サンジユウキュウ、『オ』ななジユウゴ

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかってひろがつていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものというカシゲンというかはすくなくなるだろう。それでそとへむかってシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。

ここでいいたいのは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなことしるかといわれるかもしれないが、ながもちするといいだろう。タンジユンなコウセイのば

あい、やがてもえきつて、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなしくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな

まえに、たらこやイクラをたべなくなってきたから、こどものかずがへっているのではと聞いた(●『むしのツゴウニンゲンのツゴウ「イカ、む」ヒャクサンジュウシチ』)。また、「まるこ」と「こ」をつけたなまえをつけないから、やはりこどもがすくなくなってきたのではと聞いた(●『よ』ヒャクロクジュウロク)。さかなのたまごをたべなくなっていることと、「こ」をつけたなまえをつけないことは、イツシユのリユウコウであるが、いつてみれば、あまりチュウモクされないリュウコウだ。それをセンザイテキリユウコウとよぼう。そして、それをホジするものを、センザイテキリユウコウのシンリコウゾウとよぶ。

「こどもがすくなくなっている。」のは、わりといわれるリュウコウである。よくいわれる

リュウコウはそれなりのリュウがセツメイされるが、あまりセンザイテキナリュウコウのはなしにならない。ましてやシンリコウゾウのはなしだとおさらだ。ほかにヒコンカのリュウコウもそうだ。これはなにがセンザイテキナリュウコウになつていくかというところ、わたしがおもふに、「おむすび」をあまりたべなくなつたことだ（「おにぎり」はたべているかもしれない）。

よく、コンブをたべて、「よろこぶ」とか、まめをたべて、「まめにはたらく」とかいふが、それもたべるリュウがへつているのかもしれない。ニホンジンは、センザイテキナリュウコウやそのシンリコウゾウにすなおなのではないかとおもふ。きれいによくみえるリュウコウにつながるからだ。ことたまシコウというのがうなずけるようである。

ヨンジュウイチ、『オ』ななジュウキユウ

コンピュータのハツタツで、チュウトウキョウイクがあまりやくにたたなくなるとかいふた（●サン、『オ』ジュウ、ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。それでもまなびたいひとはいるだろう。いまのところはキョウイク、シユウシヨクシステムにくみこまれているので、そうカ

ンタンにくずれないとはおもうが、ケンサクすればすぐでくるチシキをおぼえるのに、サ
ンネンかけていいのかというモンダイがある。

コンピュータがコンゴもモンダイなくつかえるのであれば、スウガクやカガクなどを、
ゲイジュツのようなセンモンブンヤとしてあつかっていくことがかんがえられるであろう。
つまりオングクなどとおなじあつかいにしてまうのだ。くわしくはダイガクでケンキュウし
てくださいでもいいだろう。それができれば、コクゴやエイゴくらのキョウイクのみでイ
チネンでおわらせることができるのではないか。これだと、ジュウなサイでダイガクやセ
ンモンガツコウにニューガクできる。サンネンブンロウドウリヨクもふえるだろう。

ヨンジュウニ、『オ』ハチジュウ

まえにセンザイテキリユウコウのはなしをした（●ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな）。しか
し、おもいだしてみると、そういういいかたをしなくても、「エンギ」といういいかたがある。
つまり、さかなのたまごをたべるという（「ニダクサン」など）エンギをかつぐから、こども
がタクサンうまれるというぐあいである。

サイキンは「エンギ」ということばをきかなくなった。エンギをかつぐより、なにかのコウカがあるかないかみたいにな、キノウシユギテキになつてきているのかもしれない。たしかにさかなのたまごをたべたからといって、かならずしもこどもができるわけではないだろう。だからといって、メイシンだでおわらせていいのか。コウカがあるかどうかはともかく、ひよつとしたらこどもができるかも知れないに、たのしみながらにしたいものである。どうもゲンダイジンは、きみじかなのかもしれない。

ヨンジユウサン、『オ』ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちよつとどうなのかとおもふ。なぜはかにマイソウするかといったら、ひとつはさききのべたように(●『オ』ニジュウなな、ニジュウゴ、『オ』ゴジユウニ、サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ)、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。

しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる（●サンジュウロク、『オ』ロクジュウキユウ）。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひとももっていたブツシツとしてのからだ（わたしはワンスルーといっている）〔●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ〕が、ほかのドウブツ、シヨクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。

かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならぬ。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たしかにテンにめされることも（●ハチ、『オ』ニジュウよん）（セイブツではなくて）、もののメンでダイジかとおもおうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイツカイとなるし、「テン」にめされないひとも、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

ヨンジュウヨン、『オ』ハチジュウニ

わたしは、『アルクカラ カンガエル（●『ア』ヒャクハチジュウサン）』いった。あるくから、フウケイがかわってノウがはたらくということである。だからうごかないひとはあまりかながえないであろうということだ。うごかない「もの」が、かんがえるというのはあまりきかない。サイキンはやりのカテイヨウジンコウチノウソウチにしたって、デンキがなければ、データをあつめられないので、たいしたことはできないであろう。そうかんがえると、デンキがあるからかんがえるかもしれない。

ニンゲンもテレビがうつっていると、かんがえたりもするであろう。おわらいバングミの、ここでわらうのですよとシテイされ、サンプルのわらいごえがでるシユンカンにわらうのは「かんがえる」とはいわない。それはだれかのまねをしているだけだ。それだと、シヤカイのジョウシキとかホウソウサツカのおもいをくんだ「かんどおり（●『む』よんジュウイチ）」だ。かんがえるとは、「カン」をヒテイしなくてはならない。ベツにそんなことはしなくてもいいのだが、ひとはいろいろなリユウがあつてかんがえる。

しかし、フウケイがかわるとか、ジョウホウがあるとか、デンキがないとかんがえられないのである。もつというと、たべものをたべないとしんでしまう。エイヨウもかんがえるものである。エーアイのハツタツがケンチョになると、それにまけじとかんがえるひとは、よ

くあるくようになるか、それともうごかずシヨウエネでかんがえるようになるかはキヨウミのあるところである。

すべてのジヨウホウのくみあわせで、ヨソクされると、ニンゲンのかんがえることはエーアイによまれてしまう。だから、よまれたくないニンゲンはイチレイヒシヤ（シヨウギ）のようなてをとりだすだろう。タンジュンにいえばルールをかえてしまうのだ。ニンゲンのブンカも、そういうルールヘンコウをしながらハツタツしたともかんがえられる。カンタンなレイだと、ラテンゴをはなしていたのを、フランスゴではなすようにしたり、コゴをつかっていたのをゲンダイゴにかえたりということである。だから、エーアイがカツタツになると、たとえば、エイゴがチンプカすることがおこりそうなのである。グタイテキにいうと、いままでつかっていたエイゴではなくて、ほかの、またはあたらしいことばをつかいたすだろうということだ。レキシをみるとそうだ。

ヨンジュウゴ、『オ』ハチジュウサン

ニホンにガッシュユウコクサンのコむぎと、ギユウニクがはいつてきたから、ニホンジンの

なかに、かみがチャイロのひとがあらわれたのなら、まあしようがない（ガツシユウコクサンのこむぎやギユウニクには、ドソウされたガツシユウコクジンセイブンははいりこむあるう。）。

わたしのひげなんかにも、しらがとともに、チャイロのけやブロンドのけがまじったりする（ベツにそめたわけではない。タンにガツシユウコクサンのこむぎやギユウニクをたべたケツカであるう。）。ところがそのひとたちは、ジブンのてで（ビヨウシにやつてもらふこともあつたろうが。）、チャイロにしたり、ダツシヨクさせてしまつたりしていた。そのひとは、タイジュウヒでイッパースントからジュツパースントテイドのガツシユウコクサンのたべものをたべたのだらうか（イチリンでもイチわりでもなく）かみのけをヒヤクパーセントそめてしまつた。そういうひとたちを「ロツカー」なり、「ヤンキー」とよんだが、それはまあどういふことであるう。

しかし、ジンコウヒでいえば、トウシヨはイチリンとかイチわりだつた。それがふえていつたようだ。それをみると、セイフハツピヨウのジキユウリツより、ただしいスウジがわかるかもしれない。ニわりテイドガツシユウコクサンのたべものをニホンジンがたべているのかもしれない。わたしはそういうフウにかみをそめるひとをボウメイシヤ（●『ア』ヒヤクニジ

ユウシチ」とよんだが、まあ、やっぱりニホンジンなのではないかとおもう。しかし、それだけのニンゲンが、ガツシユウコクサンのおかげでいきいているというジジツではある。「ニチベイドウメイ」ということばは、ウサンくさいことばだとおもうが、タイペイイゾンというの
は、ゲンジツにソンザイするわけである。

ヨンジユウロク、『オ』ハチジユウよん

トシのホウでは、そこにすんでいるニホンジンのウンコは、うみにながれるようになって
いる。ひよつとしたら、ゲスイシヨリジヨウでぬきとられるかもしれない。しかし、エキタ
イのセイブンをすべてぬきとることは、むずかしいであろう。うみにながれると、うみのシ
ョクブツのエイヨウになる。だからうみがゆたかになる。

しかし、ノウチもゆたかにしたいだろう。だから、うみにハンブン、ノウチにハンブンを
ながせばいいかもしれない。イチニチにロクセンマンウンコがうみにもどされれば（ニホン
ジンがさかなやのりをたべたとカテイするとそういえるだろう）、サイセイサンにつながる。
きになるのがとなりのジンコウのおおいくにだ。ハンブンながしただけでロクオクウンコ

になる。そうすると、そのくにのエンカイがゆたかになるはずだ。そこにハイタテキケイザイスイイキ（イーイーゼット）というキジュンをもちだして、ニホンのギョセンががんばってしまふとケンカになるだろう。たしかにイーイーゼットはひとつのキジュンではある。しかし、バンノウではないだろう。だからそのカイイキのあつかいにカンしてはジュウナンにするのがよいかとおもわれる。「ウンコをかえせ。」といわれてもなかなかむずかしいからである（セイサンリョウがちがう）。レイセイにいうと「シゲン」なのである。

ヨンジュウシチ、『オ』ハチジュウハチ

サッカーでもヤキユウでも、しばらくみているとルールがわかってくる。これらはいてよりおおくゴールすればかちというキョウギだからわかりやすい。エンギをヒョウカするニンゲンがテンスウをつけるキョウギもある。それもしばらくみていれば、どのくらいこのテングがつくかというのはわかってくる。それはみているひとが、テンスウのつけかたをガクシユウして、テンスウをヨソクするわけだ。ニンゲンはそういうことができるが、コンピュータもそういうことができるだろう。

セイジシヨクぬきのコンピューターにヒョウカさせたホウが、よりコウセイかもしれない。そんなことをいっていると、シンパンというしごとがコンピューターにうばわれてしまう。しかし、ニンゲンのいいところは、ひいきをすることもかもしれない。まるばつセンシュにコウトクテンをつけたりするというやりかただ。コンピューターは、このてのことがいなくてないか。

しかし、ひいきするシンパンは、ひいきをしたセンシュからはよくおもわれても、ほかのセンシュからはよくおもわれない。だが、コンピューターをドウニユウすると、ニンゲンのシンパンはそのくらいしかしごとがないだろう。そうやってニンゲンは、コウセイというチユウドウテキなポジションからコンピューターによっておいだされてしまう。コンピューターとおなじイケンなら、そのひとのかわりにコンピューターがあるんだから、そのひとはいらないとなる。

そうして、ニンゲンは、かたよったたちばをとるようになる。いってみれば、ニンゲンがよりコセイテキになるわけである。コセイテキでなければコンピューターにかわられてしまうからだ。いまはエイゴがキョウツウゴだから、あえてドイツゴをガクシュウしようとかになるだろう。コンピューターがエイゴシヨウであれば、ドイツゴではなしていれば、コンピ

ユーザーとしごとのメンでぶつからないことになる。それならそのことばをつかうかぎり、チュウドウテキなたちばのもどれる。しかし、タブン、ドイツゴもコンピューターのおよぶハンイだ。だからベツのことば、たとえばラテンゴとかをガクシユウする。それならやつぱりチュウドウテキなたちばをとれる。ユウキのあるひとなら、あたらしいことばをつくるだろう。そうやってコンピューターとかぶらないように、ふるいことば、もしくはあたらしいことばを、ひとはセンタクするようになる。それならコンピューターにしごとをうばわれなからだ。このジョウキョウをチンプカされたシヤカイ（オールドフアツシヨンドソサエテイ）とよぶ。つまりゲンジョウのシヤカイは「ふるい」ということである。

そして、もつとふるいゆえに、あたらしいことばやブンカに、ひとはアイチャクしようとする。チンプカされたシヤカイ（ふるいシヤカイ。コンピューターがカツヤクしているゆえに。）では、コンピューターによってしごとをとられてしまうから、ふるいか、あたらしいシヤカイにひとはテイイしようとする。みちのイメージでいえば、みちのまんなかは、コンピューターというくるまがはしっている。のつていればアンゼンだが、それをかうのにはおかねがかかる。だから、ひとは、みちのひだりか、みぎによる。ひだりがあるくのは、あたらしいことばやブンカをシコウするひだりみちハだ（セイジシヨクはない）。もうひとつ、み

ぎをあるくのは、かなりふるいことばやブンカをシヨウウする、みぎみちハだ。できればチユウオウをあるきたい。しかし、あぶないので、どちらかによるわけだ。

しかし、ひだりみちハも、みぎみちハもアンシンはできない。くるまがよりおおきくなるカノウセイがあるからだ。いつてみると、コンピューターかコンピューターをつかっているニンゲンが、ひだりやみぎに、ちよっかいをだすかもしれないわけだ。タンジュンにいうと、ひだりやみぎのことば、ブンカをコンピューターにインストールしようとするのだ。そうやって、コンピューターによって、わたしたちのくにやチイキがシヨクミンチカされようとする。シヨクミンチとはどういうことか。やすいねだんで、ザイ、サービスをソウシユコクにテイキョウウさせられることだ。そういうかんがえかたはあまりみえないが、まだのこつていなくないか。

とりひきとは、ホンライソウホウのゴウイでおこなわれるものだ。しかし、シヨクミンチのばあい、ブリヨクやシリヨクによって、とりひきをキヨヒできないようにしたうえで、とりひきがおこなわれる。いまのばあいだと、「ジユウボウエキ」というかんがえかたである。そこではとりひきをキヨヒできないように、とりひきがおこなわれる。つけくわえると、キヨヒはできるが、あいてもなにかのとりひきで、キヨヒやカカクのつみましをせまるだろう。

そうやって、コンピューターテイコクはセイリヨクをのばす。しかし、わたしは、わたしジ
シン、もしくははいえのドクリツをイジりたいおもう。

ヨンジュウハチ、『オ』キュウジュウ

セイヒンをカイガイでつくれば、ねだんをやすくできるといふ。たしかにおかねのメンで
いえば、やすくつくれるところもあるだろう。キュウリヨウがやすいなどのリユウだ。しか
し、ホントウにやすいのか。あるセイヒンエーをつくるのには、ふたりがかりで、サンジュ
ウニチかかるとする。それをカイガイでつくっても、ふたりがかりで、サンジュウニチかか
るだろう。カカクのメンではともかく、エネルギーのメンでは、かわらないのである。コス
トがちいさいとかいうが、やっぱりつかうエネルギーは、かわらないであろう。それなら、
コストはちいさくないはずだ。コストはおなじなのである。

ただ、つかうエネルギーのリヨウは、かわらずとも、やすくうけおってくれるだれかがい
るから、カカクがやすくなるというわけである。ホントウにフェアトレードなどをかんがえ
るならば、セイヒンをカカクでみるのではなく、つかったエネルギーのリヨウではかったホ

ウがいいのではないか。

ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめデイにあつて、イーにいつてエフについたと。しかし、(たとえば) イッセンマンニンのひとがイッセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきがわかるだろうか(エフにちかづくことはわかるけれども)。それをセイリすると、ビーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウした。ほかタクサンとなる。ケツキヨク、なにかのチツジヨ、たとえばジカン、なまえのジュンジヨなどをつかって、ひとりずつジュンジヨづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。

しかし、これはコンキのいるサギヨウだ。かならずチヨクセンジヨウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジイップンゴビヨウにシーさんがジーに、ワイさん

がイーにトウチャクするとなると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケン」のセツメイ」といつておく、をとくために、ふたつのセンをつかったりするのではないか。もしくはもつとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかがわかる。それならひとつのセンでつづけられる。

ひとつのセンにするというと、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを（カガク）をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリヨクは、いろいろなおこなわれている。

ゴジュウ、『オ』キユウジュウよん

ニホンのキョウイクのことを、コセイをハッキさせないキョウイクだということがあつた。そしてヘンサチでジヨレツをつける。でもこれは、ひとをつかうホウだったらツゴウがいいかもしれない。

つまり、こういうことだ。ビーダイガクのホウガクブをソツギヨウしたイーさんがビヨウキになって、はたらけなくなつたとする。それならやはり、ビーダイガクでホウガクをまなんだエフさんが、かわりにしごとをできるだろうといういれかえがきくからである。それがキヨクタンになると、シーダイガクをソツギヨウしたジーさんは、ビヨウキでしにそうだが、クローンをつくつたのもうイツカイいきられる（そのいいかたがただしいかはベツとして。）イシキをイシヨクするのはむずかしいが、おなじシーダイガクをソツギヨウするようにしむければ、まえにいきていたシーさんのようになるだろうと。

イデンも、うけとるジヨウホウもおなじなら、ほとんどおなじだろうと。しかし、「コセイ」とか「めずらしいジヨウホウ」をもっているとなると、それをフクセイするのはコストがかかる。だから、「コセイ」をもっているひとは、きらわれるのではないかと。

シソウしそう ニカン シドクバン
エイゾウ

ニセンニジユウネンサンガツとおか
ニセンニジユウネンゴガツサンジユウイチニチ

iii toga b011-s

エイチテイテイピーコロンスラッシュユスラッシュユアイアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム
テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガイイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキユウネン

『ウインドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキユウネン

『エルガクひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキユウネン

『のみダイからのケイザイガク』ニセンジュウキユウネン

『ひかりがあるところにはジュウリョクがある。』ニセンジュウキユウネン

『シソウしそう』ニセンニジュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニユウできます。

